

平成28年7月6日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

公 述 申 込 書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

1 公述しようとする事案

事案番号 平28第4001号

事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定

事案の申請者 宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2 公述しようとする者 ※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照
(ふりがな)

氏 名 ほん だ とし 勇

(郵便番号) 〒 [REDACTED]

住 所 [REDACTED]

職 名 な し

年 令 65歳



3 事案に対する賛否

否

4 利害関係を説明する事項 ※利害関係人のみ記入 (注意事項③参照)

5 自宅、勤務先等の連絡先電話番号

携帯電話 [REDACTED]

公 述 書

事案番号 平28第4001号
事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定申請
ほんだとしお
公 述 人 本 多 敏 男
住 所 XXXXXXXXXX

公述要旨

私は、LRT敷設予定の大谷街道から50メートル範囲に住む、約100世帯の自治運営に携わる会長で、地域の多くの問題解決のために奮闘しています。しかし、年々自治会員の少子高齢化が進み、会員数188名中、60歳以上が128名で、この中の75歳以上の人が65名と、限界集落に値する現状にあります。

東側には国道119号線(日光街道)、北側に大谷街道(何れも50メートル範囲内)に道路が走り、交通の便の良い地域に居住していますが、3万余名の「反対の声を無視」して走ろうとしているLRTが、本当に市民が求めている乗り物か、もう一度「原点」に戻って考えてもらいたいと思っています。

何故なら、LRTが、通勤・通学以外に何を求めてどこに行くのか、お年寄りがLRTに乗って遊びに行く所、買い物に行く所が見当たらない。

また、当自治会内を通る文星道路は、道幅が狭く、朝晩の通勤時間帯は交通渋滞で高齢者や学童が道を横切るにも危険な状態。この渋滞が、現計画の事業で解消されるのか？また、高齢者に優しい市民の足となるのか？疑義があり考えさせられる。限られた議員の考えで、この大事業を可決実行されるのが、民主的なやり方と言えるのだろうか？市民の考え方との開きを「住民投票」で知るべきと考えています。

限界集落に値する当自治会の現状を目の当たりにして、交通の利便性を重要視していますが、LRTが本当に市民のための足になるのか？通勤時間帯の交通渋滞が緩和されるのか？問題の多いこの事業を「見直す」必要があると考えています。

趣旨説明

当自治会内の通勤者の交通手段は、近隣に通う人は自転車や徒歩が主で、遠方に通う人は、バスの使用者は少人数。殆ど通勤者は、車で朝早く家を出て、車の混雑と道路の時間規制を避けて行くとのこと。

通勤者に、何故車で行くのか尋ねると、答えは簡単「朝早く家を出ても、勤務地がどんなに交通の便が悪くても目的地に直接行けるし、時間に制約

されない。」LRTが走ったら、乗車して通勤する考えはありますかと尋ねると、「一本の路線しか走らないLRTの停留場まで行く時間、LRTを降りて会社まで何で行くのか？30分も40分も歩くとか、自転車やタクシー、バスに乗り換えて行くのなら、朝が早くても車の方が時間の短縮になりますよ」との答えに納得できる。

同様に、当自治会内のお年寄りに、LRTが走ったら乗りますかと尋ねると、「病院や買い物に行くのに、LRTに乗る停留所まで何で行くのか？降りたら病院まで何で行けばいいのか？ジジ、ババは病院か食糧の買い物に歩くだけで、子供か孫の車に乗せてもらうか、タクシーで家に来てもらって出掛けますよ。面倒なLRTになんか乗りません」とキッパリと言われてしまう。

病院や公共施設・図書館・美術館等々の見学場所も回ることなく、ひたすら通勤、通学者を乗せて走るLRTの車両は、朝夕のみ乗車客が乗っていても、現在のバス同様空車で走り、一般車両走行の邪魔にしかならないと思えてなりません。ならば、LRTのための新たな道路や拡張路線は、エコ車とバス専用道路にしてはどうかと思っています。また、高齢者に対しては、玄関先まで迎えに来る人力車を走らせるとか、市がタクシー会社に小型バスを貸し付けて、病院・買い物に行ける専用巡回バスを走らせるなど、「強硬に走らせようとしているLRT敷設ではなく、原点に戻って、市民と共に新たな交通システムを考える必要があると思っています。」

当自治会内を横切る文星通りの枝葉の路地は、時間帯規制で車は進入することができず、道幅7メートル本線の朝夕の通勤時間帯は50～100メートルと車が並んでしまいます。この車の行き先は、直進は時間帯規制で車は入れないため、国道119号線（日光街道）を左右に分かれて行きます。殆どの車は右方向に曲がり、直進または駅方面か大谷方面に向かって走りますが、その通りに、LRTが走るとなると、片側一車線しか車は通れません。車はどうなるのか？更なる渋滞を招き、動きが取れなくなることは明らかで、考えられない事態が起きるのではないかと危惧しています。

こうした、車の渋滞をどう解消するのか、事業計画には詳細に描かれていません。交通便の悪い栃木県の100人当たりの車の保有台数は約66台と全国で上位にランクされている現状を見れば、車はなくてはならない県民の足になっていることは言うまでもありません。その車を置いてLRTに乗り替えるとのことですが、どこに、どのような規模の駐車場を造るかも計画には描かれていませんし、道路の時間帯規制問題も何一つ解決されないお粗末な事業計画は、白紙に戻すべきではないでしょうか？

大谷街道の道路拡張に伴って、家も土地もなくなった一人の高齢者は、

娘とマンションに入ったが、「家に引き籠もってしまい、外にも出なくなってしまうと嘆いています。」ある商店の主は、「道路拡張の度に土地を減らされ、店は小さくなり情けない」と言い、「LRT敷設のために土地を提供させられ、更に、これから、交通渋滞で客足も遠のくと共にLRTの騒音に悩まされることを考えると眠れない」と言う。

今、私達が住む近隣の路地の舗装は痛みが激しく、大型車両が走るたびに地響きで、夜が眠れないとか？目が覚めてしまうとか？の声が多いのに、道路の改善を先延ばしにしてまで、何故LRTに投資をするのか？「自転車の街」と言う宇都宮なら、通学も通勤も健康づくりのためにも、LRTの線路はやめて、道路の利用スペースを拡げ、自転車レースやみや祭りが危険なく開催できるよう、LRT事業は中止すべきであると要望します。